

目次

第1部 分野別演習

学習内容		ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
第1章 読解	1 説明的文章(1)	4~7		/	/	○ △ ×
	2 説明的文章(2)	8~11		/	/	○ △ ×
	3 説明的文章(3)	12~15		/	/	○ △ ×
	4 説明的文章(4)	16~19		/	/	○ △ ×
	5 文学的文章(1)	20~23		/	/	○ △ ×
	6 文学的文章(2)	24~27		/	/	○ △ ×
	7 文学的文章(3)	28~31		/	/	○ △ ×
	8 文学的文章(4)	32~35		/	/	○ △ ×
	9 韻文(1)	36~39		/	/	○ △ ×
	10 韻文(2)	40~43		/	/	○ △ ×
	11 韻文(3)	44~47		/	/	○ △ ×
	12 古典(1)	48~51		/	/	○ △ ×
	13 古典(2)	52~55		/	/	○ △ ×
	14 古典(3)	56~59		/	/	○ △ ×
第2章 知識	1 文法(1)	60~63		/	/	○ △ ×
	2 文法(2)	64~67		/	/	○ △ ×
	3 文法(3)	68~73		/	/	○ △ ×
	4 文法(4)	74~77		/	/	○ △ ×
	5 漢字・熟語	78~83		/	/	○ △ ×
	6 語句(1)	84~87		/	/	○ △ ×
	7 語句(2)	88~91		/	/	○ △ ×
第3章 作文	1 作文	92~95		/	/	○ △ ×
	2 思考・表現	96~99		/	/	○ △ ×

第2部 実戦問題演習

学習内容		ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
第1章 読解	1 説明的文章(1)	100~103		/	/	○ △ ×
	2 説明的文章(2)	104~107		/	/	○ △ ×
	3 文学的文章(1)	108~111		/	/	○ △ ×
	4 文学的文章(2)	112~115		/	/	○ △ ×
	5 韻文	116~119		/	/	○ △ ×
	6 古典	120~123		/	/	○ △ ×
第2章 知識	文法総合問題	124~127		/	/	○ △ ×
	付録 用言・助動詞の活用表	128		/	/	

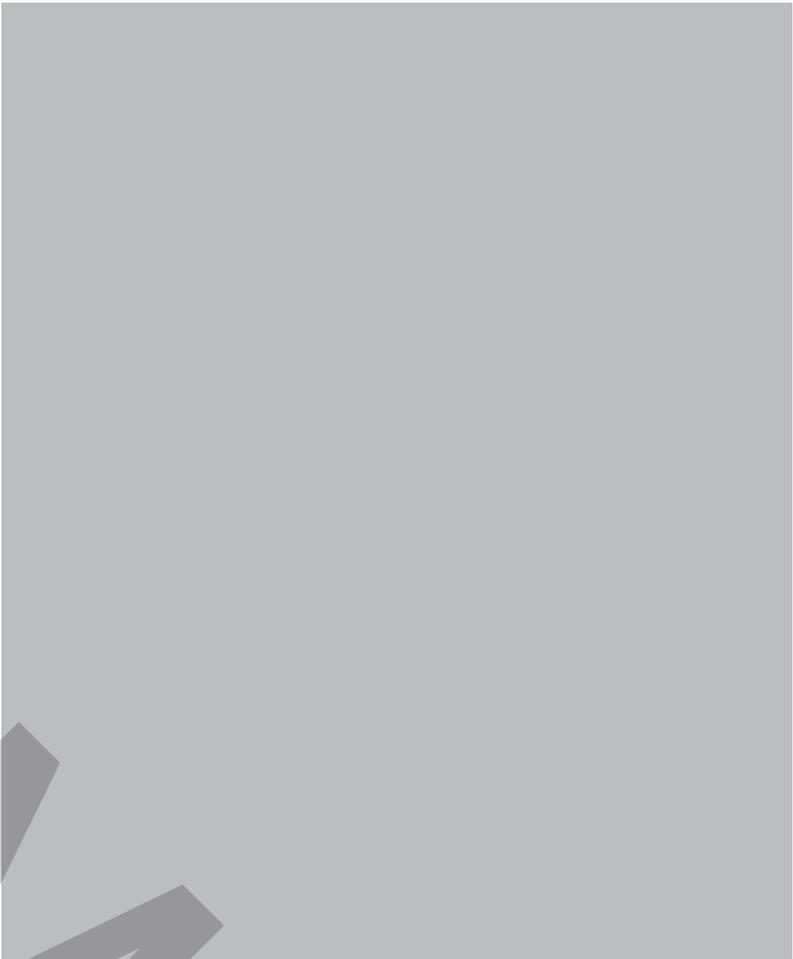
1 説明的文章(1)

ポイントチェック

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(愛媛県・改)

SAMPLE



〈吉見俊哉「知的創造の条件」より〉

(注) アクセシビリティに近づきやすさ。

剽窃は他人の文章・言葉を盗んで使うこと。

ウィキペディアはネット上の百科事典。

□(1) □①・□②に入ることをばの組み合わせとして最も適切なものを次から

ら選び、記号で答えなさい。

- ア ①すなわち ②しかし
- イ ①けれども ②それゆえに
- ウ ①それとも ②ただし
- エ ①あるいは ②したがって

□(2) — 線①「情報と知識の決定的な違い」について、本文の趣旨に沿って

説明した次の文の□に入る最も適切なことばを、段落⑤の中から十五

字以上二十字以内で書き抜いて答えなさい。

〈情報とは要素であり、知識とは、それらの要素が□ものである。〉

□(3) — 線②「今のところ、必要な情報を即座に得るためならば、ネット検

索よりも優れた仕組みはありません」とありますが、必要な情報を即座に
得るのにネット検索が優れているのは、ネット検索によって、どのような
ことが可能となるからです。最も適切なことばを、段落⑤～⑦の中から
五十字以上五十五字以内で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答え
なさい。

□(4) 本文中に述べられていることとして最も適切なものを次から選び、記号
で答えなさい。

- ア ネット検索は、読書と比較して情報収集の即時性は高いが、知識が断片化されて扱われるという問題がある。
- イ レポートや記事を書くときは、ネット検索を利用することで、迅速な情報収集とより深い考察が可能となる。
- ウ ネット検索の利用を控えることにより、図書館の本の中から必要な情報を抜き出すことができるようになる。
- エ ネット検索と読書それぞれの長所をうまく生かした、新しい知的生産のスタイルを構築していくべきである。

要点の整理

1 説明的文章の構成

説明的文章は、主に次にあげるような構成になっています。

① 頭括式(最初の段落に要旨を打ち出す)

「結論」→「本論」

② 尾括式(最後の段落に要旨を打ち出す)

「序論」→「本論」→「結論」

③ 双括式(最初と最後の両方の段落で要旨を述べる)

「結論」→「本論」→「結論」

④ 起承転結

「起(序論)」→「承(展開)」→「転(転換)」→「結(結論)」

説明的文章は、大半が「尾括式」「頭括式」「起承転結」で書かれています。

2 指示語

指示語の指す内容は、次のような手順で読み取りましょう。

① 指示語の前後の内容を確認する。前後の文脈を把握することで、どのような内容を指しているのか、ある程度見当をつけておく。

② 指示語の指す内容は、直前に述べられていることが多いので、まず、指示語より前の部分から探す。直前に見当たらない場合は、後ろの部分からも同じように探す。

③ 答えと思われる内容を指示語の部分に代入して、文を読んでみる。スムーズに読めない場合は、答えの文末を変えたり、語順を入れ換えたりし、文を整える。内容的に合わない場合は、答えが間違っているということになるので、もう一度答えを探す。

3 接続語

接続語には次のようなものがあります。

A それで、それゆえ、だから、したがって、すると、そこで、よって、など。：前に述べた事柄が原因・理由になって、後にその順当な結果・結論が述べられる。(順接)

B しかし、ところが、だけど、けれども、でも、だが、が、など。：前に述べた事柄と順当でないことを後に述べる。(逆接)

C また、そして、ならびに、および、そうして、など。：前に述べた事柄と同等のものを後に述べる。(並列(並立))

D それから、なお、しかも、さらに、そのうえ、おまけに、など。：前に述べた事柄に、後に述べた事柄をつけ加える。(添加(累加))

E あるいは、または、もしくは、それとも、など。：前の事柄と後の事柄を対立させ、比較したり、どちらかを選択したりする。(選択・対立)

F さて、では、ときに、ところで、など。：前に述べた事柄と直接には関係ない事柄を後に述べて話題を転換する。(転換)

※ これ以外に、ただし(補足)、なぜなら(理由)、もっとも(制約)、などがあります。

接続語の働きを読み取るには、その前後の内容を要約し、どのような関係になっているかをつかみましょう。

4 要旨

筆者がその文章によって最も強く伝えようとしている中心的な考え方・意見をまとめたものが「要旨」です。以下の手順で要旨を読み取りましょう。

① 段落構成に注意して、中心段落をとらえる。

② 中心段落の中心文をとらえる。段落の最初と最後の部分に着目する。

③ 文章全体の話題や他のそれぞれの段落の要点に注意しながら、中心文を柱にして要旨をまとめる。

(1) 「接続語をつかむ」接続語の問題では、空欄の前後でそれぞれどのような内容が書かれているかを正確に読み取ることが大切です。空欄①の前では、本の基本として「誰が書いたのか作者がはっきりしていること」を説明したうえで、その「作者」の例として「その分野で定評のある書き手」を挙げています。空欄①のあとでは、同様に本の「作者」の例として「定評を得ようとする書き手」を挙げています。ここでは、空欄①の前後で本の「作者」の例として考えられる二つの場合を並べています。空欄②の前では、「ネット検索

索ならば、はるかに短時間で、関係のありそうな本を読むよりもかなり高い確率で求めている情報には行き当たります」というように、ネット検索の利点を説明し、空欄②のあとでは、「ネット検索のほうが読書よりも優れているとも言える」と述べています。空欄②の前後はどちらもネット検索を肯定的に捉えている内容があることから、順接の接続語が入るとわかります。「短時間で情報に行き当たる」ということを理由として、「ネット検索のほうが読書よりも優れている」と述べているのです。

(2) 「細部をつかむ」書き抜きの問題ではまず、指定されている字数と出題形式を確認しましょう。この問題では、「それらの要素が□□ものである」という形に合うように書き抜く必要があります。傍線①の直後を見ると、「情報とは要素であり、知識とはそれらの要素が集まって形作られる体系」とあります。しかし、「集まって形作られる体系」は、指定字数に合わず、「□□ものである」という形に繋がらないので適切ではありません。そこで続きを読んでいくと、「知識というのは様々な概念や事象の記述が相互に結びつき、全体として体系をなす状態」とあります。ここでの「様々な概念や事象の記述」は「情報＝要素」を指しているので、「様々な要素が相互に結びつき、全体として体系をなす状態」と言い換えられます。したがって、「相互に結びつき、全体として体系をなす」のが「知識」であることがわかり、

指定字数や前後のつながりにも合います。

(3) 「細部をつかむ」まず、設問文を読み、何について問われているかを正確に把握することが大切です。ここでは、「ネット検索によって可能となること」とが問われていることをおさえます。ネット検索について書かれている部分を見ていくと、段落⑤の後半で、「ネット検索の場合、社会的に蓄積されてきた知識の構造やその中での個々の要素の位置関係など知らなくても、知りたい情報を瞬時に得ることができるとあります。つまり、ネット検索においては、「情報」を知識として体系的に理解することなく、個々の単なる「情報」を短時間で得ることができるので、必要な「情報」だけをすぐに知りたいのであればネット検索が優れているということです。

(4) 「内容をつかむ」内容一致の問題では、本文全体における筆者の主張を正確に読み取ったうえで、本文と選択肢の内容を一つずつ照らし合わせて正誤を判断していくことが大切です。本文では、「情報」と「知識」の違いにふれながら、「情報」を得るのに優れたネット検索と、「知識」の構造を読み取るのに優れた読書の特徴を比較しながら説明しています。このことをおさえたうえで、選択肢の確認を行きましょう。

ア … ネット検索の「情報収集の即時性は高い」ことが段落⑤・⑦で、「知識が断片化されて扱われる」という問題がある」ことが段落⑧の最後の一文で書かれています。

イ … ネット検索によって「迅速な情報収集」が可能となるとは書かれていますが、「より深い考察」が可能となるとは書かれていません。

ウ … 段落⑦で「ある単一の情報を得るには、ネット検索のほうが読書よりも優れている」とあり、「ネット検索の利用を控える」ことまでは述べられていません。

エ … ネット検索と読書それぞれの長所を述べてはいますが、「新しい知的生産のスタイルを構築していくべき」とまでは書かれていません。

2

説明的文章(2)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(佐賀県・改)

〈中野信子「空気を読む脳」より〉

(注) ヒエラルキー⇨ピラミッド型の階層組織。

ドーパミン⇨意欲や動機づけに関与する神経伝達物質。

業の深い⇨人は生まれながらに担^{にな}っている運命や制約などに強く縛られており、逃れられないということ。

デーブラーニング⇨人間の脳を模倣して大量のデータを機械的に学習すること。

ビッグデータ⇨一般的なデータ管理で扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータ。

汎用⇨一つのを広くいろいろな方面に用いること。

□(1) — 線① a) d) の漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

c	a
d	b

□(2) ※ に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 支配的 イ 批判的 ウ 革新的 エ 道徳的

□(3) — 線① 『「合理性を欠く」という性質』とはどういう性質ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 直感的な判断に頼らずに、つじつまの合うような選択をしてしまう性質。
- イ 共存するために、無用な争いを起こさずすみ分けようとしてしまう性質。
- ウ 生き延びる道を模索しつつも、自身が破滅することを望んでしまう性質。
- エ 自分が不利益を被るかもしれない、筋の通らない行動をしてしまう性質。

□(4) — 線② 「こんな選択をしたのは、なぜでしょうか？」とありますが、人間がこのような選択をした理由について、筆者はどのように考えていますか。それを説明した次の文の□に入る適切なことばを、四十字以内(読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

〈人間の中に□者がいたから。〉

□(5) — 線③ 「この『新奇探索性』は、『合理性』とはしばしば衝突する人間の『弱み』のひとつです」とありますが、「合理性」と衝突している「新奇探索性」の例として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア テスト勉強をしようと思いついたのに、部屋が散らかっているのがだんだん気になってきて、気がつくとも掃除をはじめてしまう。
- イ サッカーの試合の前日なので練習をした方がよいと十分わかっているはずなのに、対戦相手を過小評価して練習を怠ってしまう。
- ウ 翌朝寝坊するかもしれないとわかっていのに、買ったばかりのゲームをクリアしたいと思って、夜遅くまでやり込んでしまう。
- エ 親からプレゼントされた靴は安価なものだったのに、手に入れた喜びから特別な時にしか履かず、いつまでも大事にしてしまう。

5

文学的文章(1)

ポイントチェック

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(愛媛県・改)

要点の整理

① 場面・情景をつかむ

小説や随筆を読む場合、まずどのような場面設定になっているかをつかむことが大切です。①いつ、②どこで、③だれが、④何をしているかについて、整理してから問題を解くようにしましょう。

② 心情を読み取る

文学的文章の読解においては、心情の読み取りはその中心をなしており、最も重要です。次の事柄に注意して、心情を的確に読み取りましょう。

- ① 直接心情を表す語句に着目。
- ② 人物の行動・表情・会話に着目。
- ③ 場面・情景の描写に着目。

③ 表現の特徴を読み取る

文学的文章には、作者の表現上の特徴がよく表れています。次のような表現技法について、特に注意しましょう。

- ① **比喩**……たとえ。文章に深みや味わいを与えます。「天使のようにあどけない寝顔」など。
- ② **擬人法**……人でないものを人にたとえて表現する技法を、特に「擬人法」といいます。「雨が追いかけて来た」など。
- ③ **倒置法**……語順を普通と逆にします。「忘れていた、今日レポートを提出するのを。」など。
- ④ **省略法**……語句を省略して読者の想像にまかせ、イメージをふくらませます。「枝には真っ赤なリンゴが……。」など。
- ⑤ **体言止め**……体言で文を止めて文章をひきしめます。「ふるさとの山。なつかしい顔。」など。

⑥ **対句**……語句を対にして並べ、リズムを与えます。「見あげれば、天に星が輝き、見おろせば、地には花が咲く」など。

⑦ **反語**……疑問の形で表現し、それとは逆のことを強調します。「はたして不幸だったのだろうか(いや、実は幸福だったのだ)」「だれが信用するものか(だれも信用しない)」など。

⑧ **歴史的現在**……過去の出来事を現在形で表現することで、生き生きとした臨場感を表します。

④ 主題を読み取る

「主題」とは、作者が、登場人物や文章全体を通して訴えたいことです。次のことに注意して、主題に接近しましょう。

1 小説

- ① 全体の流れに注意し、中心となる文や段落(クライマックス)をつかむ。最後の部分がクライマックスとなることが多い。
- ② 登場人物(主人公)の言動や性格に注意して、ものの見方・考え方をとらえる。
- ③ 登場人物(主人公)の心情の移り変わりに注意して、何に最も感動・感激しているか、心を動かされているかをとらえる。

2 随筆

- ① 全体の流れに注意し、中心となる文や段落をつかむ。最初か最後の段落が中心段落であることが多い。
- ② 作者が特に強調して書いている部分をつかむ。
- ③ 経験・事実、意見・感想の部分とに区別し、後者の中から主題をくみ取る。

(1)「心情をつかむ」選択肢はすべて心情に関することばなので、空欄の近くから心情が読み取れる部分を探しましょう。勝目は、土産用として箱売りできるクッキーの開発を任されていました。しかし、箱売り用だとしても、クッキーの柔らかな口当たりを守るためには材料の分量を変えるわけにはいかな

いと考えています。そして、この考えに迷いがなく、社長に対して「きつぱりとした口調」で答えていることから、クッキー作りに対する自分の考えに自信を持っている様子が読み取れます。空欄①には、このように自信にあふれる勝目の様子に合うことばが入ります。しかし、勝目の「ロスが出ることは仕方ないもの」という考えに対して、社長は、「無駄が出ることを最初から(考えのうちに)入れるのはよくない」と不満な気持ちを示しました。勝目は、社長の意見を「職人の苦勞を知らない側の勝手な言い分」と捉えたいので、なぜ「自分の信条」を曲げてまでその言い分に合わせなくてはいけないのかと、腹立たしい気持ちになっています。また、社長に対して「目つきが鋭くなる」ところからも、空欄②には、社長に対する腹立たしさを表すことばが入るとわかります。

なお、小説の読解では、この問題のように前書きがついている場合があります。前書きにはこの場面までのあらすじや主人公の立場、登場人物どうしの関係についての説明など、小説を読み解くにあたって重要な情報が盛り込まれています。前書きに書かれた内容をしっかりとつかんだうえで、本文の読解に入るようにしましょう。

(2)「心情をつかむ」(1)で確認したように、この文章の序盤では、クッキーに対する勝目と社長の考えが対立しています。社長は、箱売りに向くクッキーにするために「崩れにくくする工夫」が必要だと考えていましたが、勝目は、クッキーの柔らかな口当たりのためには材料の分量を変えるわけにはいかな

し、多少のロスが出るのは仕方ないことだとも考えています。社長は勝目か

ら示された内容が予想外だったために驚いたのです。

(3)「表現をつかむ」まず、勝目の信条と社長の方針がそれぞれどのようなことを指しているかをおさえましょう。勝目の信条とは、箱売りに向いているかどうかに関わらず、クッキーの柔らかな口当たりを残しながら、手作りならはのおいしさを届けたということです。社長の方針とは、「崩れにくくする工夫」を施してロスを出さないようにし、土産用として箱売りするのに向いているクッキーにすることです。つまり、効率よく箱売りするためならレシピを変えることもいとわれない社長とは違い、勝目はクッキー本来の「おいしさ」を守り続けたいと考えているのです。このことを勝目は、「合理的であるよりもおいしさを守り続けることを第一に考えたい」と表現しています。

(4)「文脈をつかむ」このあとの田中の言葉を見ると、「ロングセラー」が「長く続けられる」と言い換えられています。その直前に「勝目さんのレシピを丁寧に守ること」とあり、この部分が「どのように作った」にあたります。また、田中は、お菓子を丁寧に作るだけでなく、「何より、おいしくなくては意味がありません」とも言っているため、「おいしいこと」が「どのようなお菓子」の要素にあたります。この二つを指定された書き方に合うようにまとめましょう。

(5)「主題をつかむ」この問題では、箱売りできるクッキーを合理的に作ることを重視していた社長が、クッキーの「おいしさ」を守り続けたいとする勝目の信条や、「東京會館らしさ」を語る田中の思いに触れて、最終的には二人の提案を承諾するという心情の変化が描かれています。本文中では、「ややあつてから、ゆつくりとうなずいた」「わかった——やってみてくれ」という動作や言葉から、社長の心情の変化を読み取れます。このように、心情の変化が起こる前後には、必ず心情が変わるきっかけや心の動きを表す描写があります。どこで登場人物の気持ちが変わったのかを確認しながら読み進めるようにしましょう。

6

文学的文章(2)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(青森県・改)

〈中沢けい「楽隊のうさぎ」より〉

(注) スネア^ニ小太鼓。

□(1) — 線①「こんな土壇場」が指している状況として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア メンバーがなかなかそろわず、集まっている団員が焦っている状況。
- イ 演奏前の不安を紛らそうと、みんながおしゃべりになっている状況。
- ウ 演奏が次々と終わり、自分たちの演奏の順番が差し迫っている状況。
- エ パーカスのトラブルが、まだ吹奏楽部全体には伝わっていない状況。

□(2) — 線②「マーチを引っ張って行く祥子が、こんな情けない顔をしていては、ブラシがない以上に心配だ」とありますが、有木がこのように心配したのはなぜですか。その理由を次のようにまとめるとき、□に入る適切なことばを、本文中から十二字で書き抜いて答えなさい。

〈祥子の打つ生き生きとしたスネアの音がしぼんでしまったら、

□から。〉

□(3) — 線③「救われたような思い」とは、どんな思いだと考えられますか。「〜思い。」という形で書きなさい。

□(4) — 線④「演奏を終えた」とありますが、これと同じ内容を比喩を用いて表現している部分を、本文中から十字で書き抜いて答えなさい。

□(5) — 線⑤「そういう場所」とありますが、この場所の雰囲気として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 女の子たちが笑いさざめいていたり、楽器を片手にしたまま突っつきあったりしている、活気に満ちた雰囲気。
- イ これから演奏に出る学校の生徒と、演奏を終えた生徒が行き交い、ごった返している、雑然とした雰囲気。
- ウ 演奏前の緊張や高揚と、演奏後の解放感や充実感を含んだ興奮が交じり合った雰囲気。
- エ まさにこれから演奏を始めようとする、ステージ上の緊張感にあふれた厳粛な雰囲気。

9

韻文(1)

ポイントチェック

1 次の詩を味わい、あとの問いに答えなさい。

(福島県・改)

真昼の星

吉野よしの
弘ひろし



- ⑫
- ⑪
- ⑩
- ⑨
- ⑧
- ⑦
- ⑥
- ⑤
- ④
- ③
- ②
- ①

□ (1) この詩を分類したものととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩
- イ 口語定型詩
- ウ 文語自由詩
- エ 口語自由詩

□ (2) 詩の表現上の特色と構成の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 繰り返しと体言止めを用い、内容をしだいに深めて構成している。
- イ 擬人法と擬音語を用い、各連を互いに対立させて構成している。
- ウ 脚韻と体言止めを用い、時間の順序にしたがって構成している。
- エ 擬人法と繰り返しを用い、各連を似た形にして構成している。

□ (3) この詩に込められた作者の思いとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ひたむきに自分だけの世界を広げて生きる強さへのあこがれ。
- イ 遠慮がちに時には大胆にふるまい自由に生きることへのあこがれ。
- ウ つつましく飾らない心を内に秘めて生きる美しさへのあこがれ。
- エ 明るい未来に向けてきらびやかに自分を飾ることへのあこがれ。

1 表現技法

- (1) **比喩**
 - 直喩……「(まるで)〜のよう」などと、比喩であることがはっきりわかるもの。例 嵐のようなかつさい。
 - 隠喩……「(まるで)〜のよう」などの語句を用いないもの。例 かつさいの嵐。
 - 擬人法……人間でないものを人間のように表現するもの。例 山が笑う。木々が手まねきする。
 - (2) **反復法**……くり返し。例 雪が降る／雪が降る
 - (3) **倒置法**……普通の語順を逆にする。例 雪は降る／しんしんと
 - (4) **省略法**……言うべき部分を省略する。例 しんしんと雪が……
 - (5) **体言止め**……行の末尾を体言(名詞)で止める。例 歩いてゆくのは菜の花畑
 - (6) **対句**……内容、形式が対になっている語句を並べる。例 山には鳥が歌い／川には魚がはねる
- *「比喩」の中に擬声語・擬態語(ちらちら、ぼつり、ザアザア、ポーッ、など)を含むこともあります。

2 詩

- (1) **詩の形式**
 - ① **言葉**
 - 文語詩……文語体で書かれた詩。例 時は来ぬ／いざ行かむ
 - 口語詩……口語体で書かれた詩。例 時が来た／さあ行こう
 - 定型詩……音数などが決まった形の詩。五七調、七五調など。
 - ② **形式**
 - 自由詩……決まった形がなく、自由な形の詩。
 - 散文詩……普通の文章のような形の詩。
- *入試に出る詩の多くは、口語自由詩です。

(2) 詩の主題

- ① 題名、行の並び、連の区切り方に着目する。
- ② 用いられている表現技法とその効果に注意する。
- ③ 繰り返し読むことで歌われている情景を想像し、作者の感動の中心を読み取る。

3 短歌

- (1) **短歌の形式**
「五・七・五・七・七」の五句三十一音。
- (2) **句切れ**
意味やリズムの上で、大きく切れるところを句切れといいます。作者の感動がこめられ、余韻が残ります。五つの句に分け、活用語の終止形や、終助詞が使われている句に着目しましょう。
- (3) **短歌の主題**

4 俳句

- (1) **俳句の形式**
 - ① 「五・七・五」の三句十七音。 …… 「有季定型」
 - ② 季語が必ず一つ入る。
- (2) **切れ字**
意味やリズムを切る働きをする語を「切れ字」といいます。主なものに「ぞ・かな・や・けり・らむ・ず・ぬ」などがあります。
- (3) **俳句の主題**
 - ① 季節をつかみ、歌われている情景をつかむ。
 - ② 切れ字・句切れに注意し、感動の中心を読み取る。

1 詩の鑑賞

(1) 「詩の形式をつかむ」ことばや文法が現代と同じなので「口語詩」、音数は必ずしも一定とはいえないので「自由詩」となります。「口語詩」と「文語詩」は、歴史的仮名遣いか現代仮名遣いによって分類するのではないことに注意しましょう。

(2) 「表現技法をつかむ」「真昼の」「きらめいている」ということばや、各連の最後が「〜に〜」で終わっていることに着目しましょう。また、昼の星が「はにかみがちな 綺麗な心」を持つていると表現することで、星を人間にたとえていることがわかります。このように、人間でないものを人間にたとえることを「擬人法」と言います。

(3) 「主題をつかむ」題名の「真昼の星」に着目しましょう。それから、「ひかえめな」「素朴な」「目立たぬように」「はにかみがちな」「ほのかな」「ひそやかに」のような「真昼の星」を説明する語に注意することで、作者の心情と主題が読み取れます。

2 短歌の鑑賞

(1) 「短歌の形式をつかむ」短歌は、「五・七・五・七・七」の五句三十一音からなっています。音数を数えながら、区切りましょう。ただし、三十一音より多い「字余り」、三十一音より少ない「字足らず」の短歌もあります。B・E・Gの短歌は字余りになっています。

(2) 「表現技法をつかむ」Fの短歌は、「夕焼け小焼け」という体言(名詞)で終わっています。また、Dの短歌の倒置法(銀杏ちるなり/夕日の岡に)、Eの短歌の反復法(長く長く)・直喩法(あふごとき)などにも、注意しましょう。

(3) 「主題をつかむ」それぞれの短歌について情景を想像し、作者の感動を

3 俳句の鑑賞

み取りましょう。Bの上の句「いついつと待ちし桜の咲き出でて」から、「新しい季節(春)」を待ち望む作者の気持ちを読み取れます。下の句「いまはさかりか風吹けど散らず」からは、「鮮やかな花の美しさ」が想像できます。Cの短歌は、「若竹のく健やかにして」から「しなやかで生き生きとした植物の姿」が、「梅雨晴れんとす」から「季節の変化」が読み取れます。Dの短歌からは、「夕日の岡(丘)」という背景に調和して「金色のちひさき鳥のかたち」をした「銀杏」の散る様子が鮮やかに浮かんできます。

(1) 「季節と季節をつかむ」俳句の中から季節感を表していることばを探しましょう。それぞれの季節がどの季節に属するかは、あらかじめ決められているので、注意が必要です。また、現代と季分けが異なります。

春……旧暦一月〜三月(立春から立夏の前日)
夏……旧暦四月〜六月(立夏から立秋の前日)
秋……旧暦七月〜九月(立秋から立冬の前日)
冬……旧暦十月〜十二月(立冬から立春の前日)

(2) 「細部をつかむ」「地に接するように群がり咲く葦の特徴を的確にとらえている」ことばを、俳句の中から探しましょう。

(3) 「主題をつかむ」鑑賞文を読み、主題を理解する手がかりをつかみましょう。「淡い紫色」「(春の)やわらかな光」「可憐に咲いている」「(春の)陽光のやわらかさ」に着目して主題をまとめましょう。

10

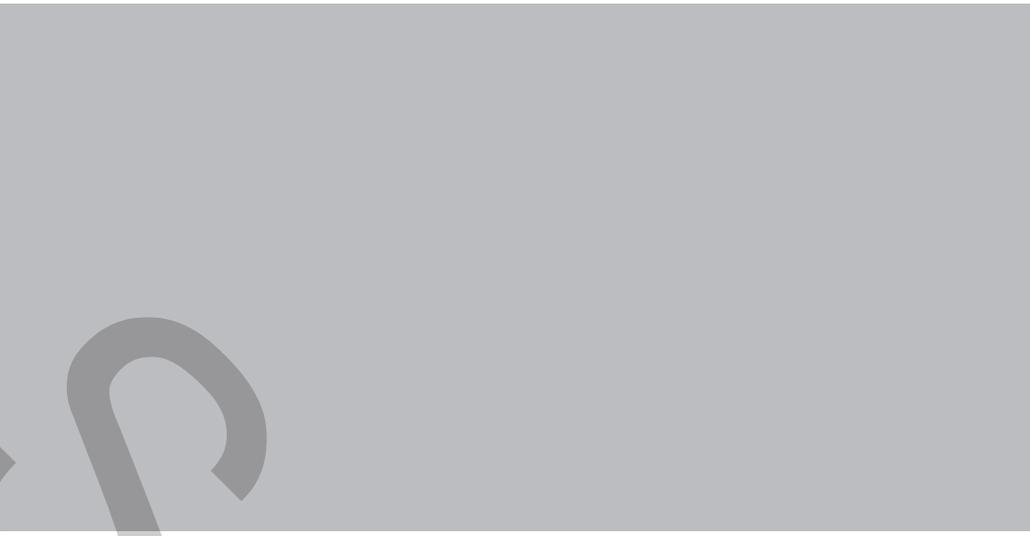
韻文(2)

1 次の詩を味わい、あとの問いに答えなさい。

(長崎県・改)

雲雀ひばり

伊東静雄いとうしずお



①②③④⑤⑥⑦⑧ 第①連
⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮ 第②連
⑯⑰⑱ 第③連



②①②③④⑤ 第③連

□(1) この詩を分類したものと最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩
- イ 口語定型詩
- ウ 文語自由詩
- エ 口語自由詩

□

□(2) ⑪行目「切株と少年を掠める 二度 三度」の部分に用いられている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 対句法
- ウ 反復法
- エ 倒置法

□

□(3) ④行目「誇らしい収穫の時は終わった」とありますが、この季節はいつですか。漢字一字で書いて答えなさい。

□

□(4) ⑱行目「地上の危険」とは、この詩の中では何を指していると考えられますか。詩の中から一語で書き抜いて答えなさい。

□

1 文法(1)

ポイントチェック

1 次のそれぞれの文の——線部は文の成分としては何にあたりますか。それぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 北極星、それは古代の旅人と航海者のこよなき案内人だった。
 □(2) これから抜き打ちテストをする、と先生が言われた。
 □(3) 長雨続きだったので、野菜が高騰している。
 □(4) 「おじさん」と呼ばれたのは、たいへんにショックだった。
 □(5) 姉がパリに留学してから、三年たちました。

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語
 エ 接続語 オ 独立語

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

2 次のそれぞれの文の——線部のことばの、文節と文節の関係として適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) ある日、私に思いがけないことが起こった。
 □(2) 私は私を呼んでいるらしい声に、ふりむいた。
 □(3) 雨降りだったから、外出は中止だ。
 □(4) いや、まさか私のことではあるまいと思った。
 □(5) ふりむくと、小さなかわいい女の子がにこにこしている。
 □(6) 私の手帳を拾って、追いかけてきたのだ。

ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係
 ウ 接続・被接続の関係 エ 並立(対等)の関係
 オ 補助・被補助の関係 カ 独立語

3 次のそれぞれの文の——線部のことばは、文の成分としては何にあたりますか。それぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 山の向こうに一軒の家がありました。
 □(2) そこにいる君、ボールを取ってくれないか。
 □(3) 努力をしないのだから、成績が上がるはずがない。
 □(4) 彼は、校内一の俊足だ。
 □(5) クラス一の人気者は、彼女だ。

ア 主部 イ 述部 ウ 修飾部
 エ 接続部 オ 独立部

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

4 次のそれぞれの文の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 聴衆は、彼女の弾くピアノをうっとりと聞いた。
 □(2) 私は、河のように長くゆるやかに生きたい。
 □(3) 文化祭で、一組は劇をし、二組は合唱をした。
- ア 単文 イ 複文 ウ 重文

(1)
(2)
(3)

1 「文の成分」

主語……動作、作用、性質、状態などの主体になるものを表すことば。「何が(は)」「誰が(は)」にあたる内容。

述語……主体になるもの(主部)の動作、作用、性質、状態などを表し、文全体をまとめたり、完結させたりする。「どうする」「どんなだ」「ある(ない)」「何だ(誰だ)」にあたる内容。

修飾語……述部をくわしく説明する。「いつ」「何を」「どこで」「どんなに」などにあたる内容。

接続語……あとに続く部分に対して、原因、理由、条件、断りなどを表す。

「～なので」「～だが」「～ならば」などにあたる内容を表すものや、「しかし」「そして」などの接続詞。

独立語……他の部分と直接に結びつかず、独立している部分。感動、応答、呼びかけ、提示にあたる内容を表すものや、「おはよう」「ああ」「もしもし」などの感動詞。

2 「文節と文節の関係」

主語・述語の関係……「何が(は)・誰が(は)」と「どうする・どんなだ・ある・ない・何だ・誰だ」の関係。

修飾・被修飾の関係……「いつ、何を、どこで、どんなに」と「どうする・どんなだ・何だ」の関係。

● 体言を修飾するのは連体修飾、用言を修飾するのは連用修飾。

接続・被接続の関係……「～なので、～なのに、～ならば」と「どうする・どんなだ・何だ」の関係。

並立(対等)の関係……対等の関係にある文節どうしで、位置を入れ換えても意味が変わらない。

補助・被補助の関係……「静かである」「教えてもらう」「言っている」「笑ってください」など、あとの文節が本来の意味を失って、前の文節に補助的な意味をつけ加えている関係。前の文節の終わりに補助語を導く「て・で」があることが多い。

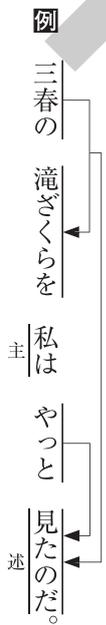
独立語……感動、応答、あいさつ、呼びかけ、提示などを表し、他の文節とは直接の関係を持たない。

3 「連文節」

二つ以上の互いに隣りあった文節が、修飾・被修飾、主語・述語などの関係で結びつきながら、ひとまとまりになって一つの文の成分と同じはたらきをしているものを、連文節といいます。

4 「文の種類」

単文……一文の中に、主語・述語の関係が一組だけあるもの。



複文……一文の中に、主語・述語の関係が、対等の関係ではなくて二組以上あるもの。



重文……一文の中に、主語・述語の関係が、対等の関係で二組以上あるもの。



練成問題

1 次の文について、あとの問いに答えなさい。

(栄東・改)

〈山ではテレビは見られないという話だったので、ぼくたちは本を持参した。〉

- (1) この文を文節に分けるといくつになるか、書いて答えなさい。
 □(2) この文を単語に分けるといくつになるか、書いて答えなさい。
 □(3) この文の主語と述語を、それぞれ一文節で書き抜いて答えなさい。
 □(4) 線部「山では」は、どこに係っていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア テレビは イ 見られないと
 ウ 話だったので エ 持参した

(1)				
(2)				
(3)	主			
(4)		述		

2 次のそれぞれの文の——線部のことばの、文節と文節の関係として適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 試験前なので、熱心に勉強する。
 □(2) ペンとインクをください。
 □(3) 家中で、おかあさんがしきりに呼んでいる。
 □(4) 四月九日、その日が入学式です。
 □(5) かさを忘れたので困る。
 □(6) 子どもが公園で遊ぶ。
 □(7) 私は夜は寒いと思う。
 □(8) 横線の引かれた紙が一枚ある。

- (9) ぜひ、お出かけください。
 □(10) 異様な荒々しい一群が、入口に現れた。

- ア 主語・述語の関係
 ウ 連用修飾・被修飾の関係
 オ 並立の関係
 キ 独立語
 イ 連体修飾・被修飾の関係
 エ 接続・被接続の関係
 カ 補助・被補助の関係

(1)										
(2)										
(3)										
(4)										
(5)										
(6)										
(7)										
(8)										
(9)										
(10)										

3 次のそれぞれの文の——線部の述語(部)に対応する主語を、文中から一文節で書き抜いて答えなさい。

- (1) 気がつくとき、さつきまで真っ青だった空が、いつのまにか夕暮れの青紫に変わり、水面も黄色じみたオレンジ色の鏡から、今はもう黒っぽいエナメルのような反射に変わっている。(千葉県)
 □(2) 自然はあるときに生まれたと、地球の歴史に関する研究書は教える。(長野県)
 □(3) やがて、だれの目にも明らかに新緑は稜線を染めながら登り、全山を緑で覆っていく。(和歌山県)
 □(4) 春が近づいても気温がなかなか高まらず、ある日突然に春がたけなわとなつて、たちまちにして夏に移行してゆく山地や北方では、事態は動物にとつてもっと深刻である。(埼玉県)
 □(5) 旅人はおのおの心に何らかのあらたな感情をいだいて、下り道に再び足を踏み出したにちがいない。(千葉県)

(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

4 次のそれぞれの文の——線部が係る部分を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□(1) もし、アこの一本のイヒノキがウ残されてきた経過がすべて エわかったら、それは村の歴史である。
(京都府)

□(2) もちろん、「学ぶ」といっても、べつだん、教室で教科書を ア読むような種類の イ学び方ではなく、ほとんど無意識的な ウ学び方であるのが エふつうである。
(鹿児島県)

□(3) 梅の白い花を、ふうわりと覆う雪のかすかな光。その風情を、そのまま ア恋人に イ見せたくて、作者はそつと梅の花を ウ指先で エつまみとる。
(東京都)

□(4) 旅人はなにかば自然の中に紛れた踏み跡を探りながら、それと同時に、そのつど初めて ア道を イひらく ウ気持ちで エ進んだことだろう。
(秋田県)

□(5) この言葉は、そのときの印象のままに、決して陳腐になることなく、いまだに、 アこぎたない壁の落書きと イ一緒に ウ私のなかで エ生きつづけている。
(和歌山県)

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

5 次のそれぞれの文の——線部が修飾する文節を書き抜いて答えなさい。また、それが連用修飾ならA、連体修飾ならBと書きなさい。(共立女子)

□(1) お湯がぐらぐらとこわいくらいに煮え立つ。

□(2) 暗く果てしなく広がる宇宙空間。

□(3) 美しく歌い続けるカナリア。

□(4) あざやかな色に染まった空。

□(5) コスモスのやさしい、人を明るくする色あい。

6 次のそれぞれの文の——線部が修飾している一文節を書き抜いて答えなさい。

□(1) 第一次的な自然を背景にして、その中でいかにより多く自然のエッセンスをそれ自身に保有している第二の自然を造るかに日本の庭造りのおもしろさがある。
(鳥取県)

□(2) 毎年のように行司をやる村の長老が、土俵へ上がった。

□(3) 何もないということが当然のようになってくると、逆に、なぜ日本の生活にはあんなにもたくさんのもがあるのか、奇妙に感じられる。

□(4) あの美しい六角形の精緻(せいせいち)を極めた雪の結晶など、これほど美しいものが現世にあるのかと思われるほどである。

(4)	(1)
(5)	(2)
	(3)

7 次の文の——線部に対する主語を一文節で書き抜きなさい。また、この文が単文ならA、複文ならB、重文ならCの記号を書いて答えなさい。

〔昭和三十、四十年代の経済優先の社会情勢は、為政者も林業者も、そして場合によっては、林学者をも木材生産という有形的な経済行為にのみ熱中させた。〕

(3)	(1)
(4)	(2)

□

1 作文

ポイントチェック

① 「ありがとう」ということばから、あなたが思い浮かべたり考えたりすることを、「作文の注意」にしたがって、書きなさい。(三重県)

〔作文の注意〕

- ① 題名は書かずに、本文から書き出しなさい。
- ② 原稿用紙の正しい使い方にしたが、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。

② 国語の時間に「読書について」の話し合いをしました。その中で、次の

ような意見が出されましたが、あなたはどうか考えますか。あなたの読書経験を振り返り、あとの《注意》に従って意見を書きなさい。(山形県・改)

〈マンガ(漫画)を読むことは、読書に含まれる。〉

《注意》

- ◆ 賛成・反対の立場を明確にすること。(賛成、反対のどちらの立場を選択しても、そのこと自体は採点に関係がありません。)
- ◆ 「題名」は書かず、本文から書き始めること。
- ◆ 二百字以上二百四十字以内で書くこと。

要点の整理

① 課題作文の書き方

◇ 課題作文を書く

課題作文で一定以上の得点をあげるために最も重要なのは、当たり前のことではありますが、「課題」に即して作文を書くことです。「課題」に即していない作文は、他のすべての条件を満たしていても、不可となります。ですから、「課題」の内容をしっかりと読んで、何が意図されているかを正しく理解してから書くことが肝要になってきます。独り合点して、しゃにむに書くことは絶対に避けましょう。

◇ 課題作文の特徴

課題作文の場合、設問の特徴はほぼ次のようになります。

- (1) 「課題」として、「題」と「注意」または「条件」が提示される。
- (2) 「題」の内容は、中学生としての日常生活に対するさまざまな角度からの関わり方と、それについての自分の意見の表明というものが主流。
- (3) 字数制限の明示。百字から四百字程度まで、かなり幅広い字数で出題されている。
- (4) 段落ごとに書く内容が指定されるのがほとんど。現実的には、前の段落ではくという内容を書き、後の段落ではくという内容を書けという、二段落構成の作文形式が大半を占める。
- (5) 正しい原稿用紙の使い方に従えという指示の有無。この指示は明示されている場合と、必ずしも明示されていない場合があるが、その場合には、他の注意・条件の中に繰り込まれているので、その内容を守っていればよい。特に注意・条件が書かれていない場合でも、次の諸原則は守ること。

a 一マス一文字の原則。

b 句読点や括弧もaに準じる。

c 段落の最初は必ず一マス空ける原則。

◇ 課題作文を書く手順

設問を読んでいきなり作文を書き始めるのは乱暴です。限られた時間の中で、課題の意図を読み取って、それを反映させた一定の内容のまとまりを完成させるためには、それなりの手順が必要です。その手順を踏むことで、逆に苦手意識も感じないですむことになるので、作文を書くのが苦手だという人は、次の手順を体得してください。

手順1 与えられた課題に対して、その意図を読み取った上で、何を書くか

いろいろな題材を考えて、絞り込みをする。(書くのにかける時間や字数も考慮する)

手順2 絞り込んだ題材がきまったら、キモ(中心)になる文(これが書き上がったという中心文)を書いてみる。その文を結びに置くか、書き出しに置くかを決める。

手順3 キモになる文が初めにくるか最後になるかで多少自身の並べ方は違ってくるが、どういう材料を、どんな配列で並べてやれば、キモの文が生きるかを考える。その際に必要な材料をいくつか書き出して(思い描いて)、並べてみる。

手順4 全体の構成(材料の組み合わせ方・並べ方)を決める。

手順5 考えた構成に合うように、実際に文章にしてみる。ここで、それぞれの内容にあった肉付けを行う。会話を入れるなどの工夫もする。

手順6 読み手の立場に立って、書いた文章を見直し、文法的・語句的な誤り、読みにくさを修正する。(いわゆる推敲)

本問では、段落ごとの内容指定は特にないので、「ありがとう」ということばを耳にした具体的な場面を簡単にまとめ、それについてどう思ったか感じたかを述べるような二段構成にするなどと、自分で決めればよいでしょう。

2・3 条件作文の書き方

◇ 条件作文の種類とその対策

条件作文は、毎年手を替え品を替え、いろいろなパターンのものが出題されていますが、資料となるもの(散文、韻文、統計グラフ・表など)が与えられ、それを利用して、指定の条件に基づいて書く作文のことです。典型的な出題パターンには、次のようなものがあります。

● 詩(短歌・俳句)について、その情景を説明させたり、作者の心情をつかんで、その感想を書かせたりする。(鑑賞文作成形式)

● 資料データから何らかの特徴を読み取らせ、それについて自分の意見をまとめさせる。(資料読み取り形式)

● 一定のテーマについて、自分の立場を決めさせ、その立場からの意見を述べさせる。(ディベート形式)

● 散文内容の読解を深めて記述させる。(読解延長形式)

他にもさまざまなバリエーションが考えられますが、対策としては、①条件設定が細かいのでそれを忠実に守る、②それぞれの典型的な形式について、類題で実際に作文を書いてパターンに慣れておく、③資料の読み取りの練習を作文とは切り離して日常的にしておく、などが考えられます。

◇ 条件作文の書き方の手順

前頁で述べた課題作文の書き方と大きく変わることはありません。違うのは、手順1の「課題の意図の読み取りとそれを反映させるための題材の選択」が必要ないことです。条件作文の場合は、あらかじめ条件(例えば資料データの読み取り)の中に組み込まれているので、この段階は省いて考えることができます。現実的には、資料の読み取りの結果から導かれるのが手順2の「キモの文」ということになるので、この段階は条件作文の場合、特に注意を払うべき段階と言えます。キモの文を導くための根拠・理由をはっきりさせることで、文章の骨格はできあがりますから、あとは課題作文の書き方の手順通りに、構成の工夫、内容の肉付け、推敲という段階を踏め

ばいいのです。

②のようなパターンの場合、先に自分の立場を決めておくと書きやすくなります。先に自分の意見を組み立てようとすると、考えるのに時間がかかりすぎたり、はじめに考え過ぎて意見がまとまらなくなったりしかねませんから、むしろ、この立場から考えればこうなるという姿勢で臨む方が気楽に書けるはずです。

このパターンの問題は、解答者の立派な意見を求めているのではなく、あくまでも、解答者が自分の立場から外れないように意見を組み立てることができるかどうか(論理的な破綻がないか)をみることにいることを忘れないことが肝心です。

③の場合は、典型的な資料の読み取りの問題です。資料の表から目立つ数値を読み取らせ、それについて解答者がどう考えるかをまとめさせるというのがねらいになっています。読み取ったことについてどう考えるか(どういう意見を持つか)は、ふだんからいろいろな事柄について自分なりに考え判断する習慣をつけておかないと難しいということにもなりかねませんから、平素からの批判能力や意見構築能力の養成が必要です。

いずれにしても、このような条件作文で評価されるのは、意見の内容そのものではなく、意見構築の際に論理の筋道に破綻がないかどうかであるということには忘れないようにしましょう。

◇ 不必要な減点を避けるために

作文の評価は、右のような主として文章構築上の論理性が中心になりますが、それ以外に、読みやすさ、表記上の誤りの有無、文法・語法上の誤りの有無なども評価の対象になります。比較的軽視されやすい部分ですが、作文においては、ここでの手抜きは場合によっては致命的でもあるので、念を入れた推敲をおきたいものです。注意すべき点は次の通り。

- ① 主語・述語のねじれ
- ② 句読点の位置
- ③ かなづかい・送りがない
- ④ 同音異義語・同訓異義語の書き分け
- ⑤ 修飾語の位置
- ⑥ 適正な接続語の選択
- ⑦ 比喩の適切さ